

令和元年北方領土対策特別委員会開催状況

開催年月日 令和元年11月25日(月)
 質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 委員
 答弁者 北方領土対策本部長、北方領土対策局長
 北方領土対策課長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 北方領土体験学習事業などに関するクラウドファンディングについて</p> <p>(一) クラウドファンディングに至った経緯について</p> <p>クラウドファンディングは、日本国内では右肩上がりに増えておりまして、前年度比127.5%増、1千7百億円の市場、そして、2017年度では、延べ137万人が参加する、そういう大きな動きになっています。クラウドファンディングという横文字、カタカナなのでありますが、日本においては鎌倉時代から「模合(もあい)」だとか、「無尽(むじん)」だとか、そうした馴染みのある制度でもあります。</p> <p>私としては、このクラウドファンディング自体は、大変重要な制度であると思っております。例えば、自助、公助、共助ということをですね、地域の中でしっかりと考えていきかけだとか、もし行政が取り組む場合は、行政の組織文化の改革にもつながる大変重要な制度だというふうに注目をしているところであります。</p> <p>はじめての取組だと考えますが、北方領土体験学習事業の寄付をクラウドファンディングで募集しました。</p> <p>新たな啓発運動のあり方についても議会からも求められている時でもありまして、良いチャレンジだったと思っておりますが、領対本部として、このクラウドファンディングにチャレンジする、それを決めた経緯や目的について伺います。</p> <p>【再質問】</p> <p>ちょっと確認したいんですけども、クラウドファンディングの実施も含めて、知事公約でもですね、ふるさと納税の一環でクラウドファンディングにしっかり取り組むというようなことがあったと思っておりますけれども、その知事公約に基づいてこの事業を検討されたのか、公約に関わらず、以前からこの事業について検討されていたのか伺います。</p> <p>(二) 事業選定の理由について</p> <p>そもそも予算計上をして、議会としても了として計上していただいたということで、より効果的な事業ということでクラウドファンディングを導入されたということなんですけれども、そもそも行政の性質上ですね、予算を計上したら、クラウドファンディングが成功してもしなくても、やらざるを得ないということになると思うんですけども、そもそもやると決まっている事業が、果たしてクラウドファンディングに合うのかどうかということを検証しなければならないというふうに思います。</p>	<p>(中島課長)</p> <p>クラウドファンディングに取り組んだ経緯についてでございますが、現在、北海道が抱える様々な課題を乗り越えるためには、道内のみならず道外を含めた様々な方々のあらゆる知恵や力を結集することが求められている状況にあると認識しておりまして、道といたしましては、資金面や包括連携協定など、様々な手法を通じた官民連携のさらなる促進を図ることが重要と考えているところでございます。</p> <p>そうした中、今後、幅を持たせた北方領土返還要求運動を行うにあたりまして、外交交渉を後押しする啓発事業のさらなる広がりを目指してまして本年の新規事業であります「北方領土体験学習事業」と、それから「北方領土サポーター活躍促進事業」、この二つにつきまして、啓発事業として初の試みといたしまして、クラウドファンディングに取り組むこととしたところでございます。</p> <p>(篠原局長)</p> <p>事業検討の時期などについてでございますが、本事業につきましては、新規の啓発事業といたしまして、本年6月の第二回定例会におきまして予算計上したところでございまして、その後、実施に向けてより効果的な事業となるよう検討を行う中で、官民連携に加えまして、新たな啓発効果を狙う観点から、クラウドファンディングを活用することとしたところでございます。</p> <p>(中島課長)</p> <p>事業選定の考え方についてでございますが、今回、クラウドファンディングを活用した「北方領土体験学習事業」については、若年層における北方領土問題への関心を一層喚起するとともに、後継者育成の裾野拡大を図ることを目的とした事業でありまして、具体的には、道内の中高生が根室管内に赴きまして、現地で北方領土を直に見て、元島民の方の講話を聞くとともに、北方領土で当時、主要産業でございました水産加工業に関わる体験を通じまして領土問題を学習するという新たな取組でございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>そこで、このクラウドファンディングを活用する事業として北方領土体験学習事業が選定されましたけれども、このクラウドファンディングを実施するに当たって、どういうポイントで事業を選定されたのか。私としましては、議会としてももう少し、委員会としても議論すべきだったかもしれませんけれども、既存の事業ではなくてですね、クラウドファンディングに合うような新しい事業、税金というか直営でやるよりも、むしろ民間の活力を使ってやった方がいい、これからやる事業などに関して、クラウドファンディングとして選定することもできたかというふうに思いますが、現段階で選定の理由について伺いたいと思います。</p> <p>(三) 今回のクラウドファンディングの結果について</p> <p>事業内容については、非常に重要な事業でありますし、大事なことは、これから結果の総括ということを行いますけれども、今回の結果をもってして、クラウドファンディングはやっぱりダメなんだとか、あるいは、道内の市町村自治体においてですね、北海道庁でもやってダメだったのだから、なかなかチャレンジできないということが蔓延するというのが非常に私は一番危惧しているところであります。</p> <p>そもそもクラウドファンディングの成功のポイントというのはですね、だいたいはず、コツコツと毎日、熱量を持った個人がですね、人の顔が見える形で発信し続けるということが、まず第一でありますし、不特定多数の人がバァーッと賛同するのではなくて、まず成功のポイントの一つは、発信する人個人の知人・友人で3分の1、その見える範囲の知人・友人でさらに3分の1、そこから連動して、残り3分の1が不特定多数ということになるわけですよ。</p> <p>そうすると、この事業を発案した皆さん自身が、自分達のお子さんだとか友達に、「こういう事業やるんだけど、すっげーいい事業だからやろうよ」っていうくらいの熱量がないと、広がらないわけですね、極論すると。もっと言えば、知事公約でいけばですね、知事がそういう思いで、このクラウドファンディングに出ている事業を常に発信するというようなことが、今の道庁組織の性質上ですね、私は、個々の人が、もっとやってもいいと思いますけれども、ツイッターの約3万近くもある知事の発信がなかったということも含めてですね、非常に残念な結果だったというふうに思っています。</p> <p>今回のクラウドファンディングのこの結果を受けて、どのような総括をして、今後どのように取り組む考えか伺いたいと思います。</p> <p>【指摘】</p> <p>指摘になりますけれども、決して皆さんを責めているわけではありません。チャレンジしていただいたことはいいと思いますけれども、そもそもクラウドファンディングをやる前提に当たってですね、税というか直営でやるべきところと、あとどこのところを民間の自由な発想だとかスピードの早い資金とかで賄って</p>	<p>元島民の方々の平均年齢が84歳と高齢化する中、今後、北方領土問題の解決に向けた外交交渉を後押しするためには次代を担う若い世代への啓発を重点的に行うことが重要でありまして、若者を対象としたこの新規事業に対し、さらに新たな試みといたしましてクラウドファンディングを活用することで、領土問題の啓発につながると考えまして、本事業を選定したところでございます。</p> <p>(佐藤本部長)</p> <p>今回のクラウドファンディングの結果などについてでございますが、今回活用いたしました、このクラウドファンディングにつきましては、10月4日から11月15日までの約1ヶ月余りを寄付金の募集期間とし、目標額は415万2千円としたわけでございますが、それに対し4名の方から1万5千円の寄付をいただきました。</p> <p>本事業に賛同されて、貴重な寄付をいただいた方々がいらっしゃるわけでございまして、私ども、まずもって感謝しておりますし、担当する道職員にとって、このご寄付金は、額は1万5千円かもしれませんが、大きな励みとなったと私は考えております。</p> <p>この事業につきましては、新たな試みとして、このクラウドファンディングを活用することで啓発につながるというような目的もあったわけでございますが、一方では、ご指摘のあったとおり、結果的に目標額には大きく及ばなかったという現実もございます。</p> <p>クラウドファンディング募集のホームページ上で、ご寄付された方は書き込みができることになってまして、そういった中でいただいたコメントが数多くございます。私ども道といたしましては、今後、そうした意見なども参考として、今回の結果を踏まえながら、募集期間の設定や情報発信の方法など、クラウドファンディングの効果的な活用方法について、研究を重ねていきたいと考えております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>くのか、熱量のある発信を誰がどういうふうにするのかということもですね、道庁組織として取り組む場合はしっかり検討していただきたいというふうに思います。</p> <p>私としては、北方領土対策本部だけで考える課題ではなくなりますけれども、今、各部です、試験的に SNS だとか若手の職員の方が発信していると思うんですけれども、知事公約でやったクラウドファンディングを各部任せに対応するのではなくてですね、部横断的に、しっかりと、SNS をやっている若手職員がチャレンジできる場所として、予算計上の枠外の、手続はいろいろあるかもしれませんが、そういったところでしっかりと取り組んでいただくよう、指摘をさせていただきたいと申しますし、北方領土対策本部の皆様におかれましては、是非、様々なチャレンジを、私も道議会議員の一員として後押しをして参りたいと思っておりますので、様々なチャレンジをしっかりとこれからはさせていただくことを指摘申し上げまして、私の質問を終わりたいと思っております。</p>	